



高田小だより

「自主、自立、自信」やればできるの体験を支える学校づくり

笑顔であいさつ 地域に感謝

ありがとうの気持ちを込めて

R3. 6月3日発行
文責：園田

「挨拶」の意味

挨拶（あいさつ）という文字の「挨」は「ヒラク」と読み、「拶」は「セマル」と読むそうです。つまり、あいさつとは、「自分の方から先に心を開いて相手に迫る」という意味だそうです。「先に（自己開示）すること」であり、人間関係を築ききっかけでもあるそうです。

子どもたちの様子

今年四月に赴任して思った事は、「よくあいさつしてくれるなあ」でした。朝は正門や靴箱のある玄関で子どもたちを迎えますが、ほとんどの子どもが立ち止まって、丁寧にあいさつしてくれます。廊下でもすれ違う度にしっかりとあいさつをしてくれてとても感心しました。しかし、校外となると様子がちよつと変わってきます。個人差もありますが、毎日、地区の安全協会の方が交差点で見守りをしてくださいますが、半分以上の子どもたちは目の前を素通りしていきます。地域の方に気持ちよ



5月12日 民児協の方々によるあいさつ運動

くあいさつする態度を通して、感謝の気持ちを伝えられるよう、指導していきたいと思えます。

「愛言葉」あいさつ・ききかた・そろえかた

③靴のかかとを靴箱の手前のへりにそろえる

この3つの生活規律を徹底して行った結果、学力向上に高い成果が現れたという事例があり、本市では平成28年度から全ての小中学校で一斉にこの取組をスタートしました。特に次の四点を示しています。

- 一、あ・明るく
- 二、い・いつでも
- 三、さ・先に
- 四、つ・続ける

この四点を基に本校では「立ち止まって、相手を見てあいさつする」指導をしています。さわやかなあいさつが、地域に広がり、高田小学校のよき校風となることを願っています。ご家庭でも一声かけていただくと幸いです。

体力低下に歯止めを

6月3日（木）から二日間、

体力診断テストを行いました。保護者の皆様も経験のある事と思います。「スポーツ庁『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』によると、小中学生の体力低下の背景要因として、生活習慣の変化を指摘しています。具体的には、ゲームやスマートフォンなどの利用時間を示す「スク



リーンタイム」が増加している。特に小・中学生ともに男子で長時間化しているそうです。男子はスクリーンタイムが1日5時間以上の小学生が十五・四%で、前年度より0・2ポイント増加。女子は九・二%だそうです。このスクリーンタイムが長いほど体力合計点数が低いという傾向もみられたそうです。

本校児童の体力実態は、スクリーンタイムとの関連性はまだ調べていませんが、一昨年の体力テストの結果を全体的に見ると、柔軟性と投力、及び持久力と筋持久力に課題がありました。特に柔軟性の課題が大きい結果となっています。要するに体が硬いということです。柔軟性を高めることで、主に次のようなメリットを得ることができます。

- ケガをしにくくなる
- 疲れにくくなる
- 運動効果がアップする

関節には静止姿勢と動いてい

るときのそれぞれに動かすことができる範囲（可動範囲）があり、この可動範囲は私たちの運動に影響を与えるそうです。今年度の結果を学校全体で分析して体育学習を進め、課題を少しでも改善していきたいと思えます。



ご理解と協力をお願いします

左のスペースは、本校体育館と校舎の間にある、車椅子利用者用駐車スペースとスロープです。本校では車椅子で学校生活を送る児童が在籍しています。（駐車許可証有り）目的以外の利用はご遠慮いただきますと共に、駐車許可証提示車両へのご配慮をお願いいたします。



■前号の訂正とお詫び
学校だより第2号で5年生の集団宿泊教室予定日を誤って掲載しました。正しくは10月13日（水）と14日（木）です。訂正してお詫びいたします。